

# WHO 伝統医療の新世界標準作成を発表

## 日・中・韓が中心に漢方や鍼灸の標準化を進める

世界保健機関（WHO）は12月6日、伝統医学の医療情報について新たな世界標準を作成すると発表。国際伝統医学分類プロジェクト諮問グループを発足させ、診断と医療行為の標準用語・分類となる「伝統医学国際分類（ICTM）」を構築し、世界の医療保健統計の基礎であるWHOの国際疾病分類（ICD）に組み込む。2014年までに最終案をまとめ、15年のWHO総会での合意を目指す。

ICTMには、漢方や鍼灸をはじめ、東アジア起源の伝統医学について疾病名、病証、症状・徴候、適応症、治療法が含まれ、日本、中国、韓国が中心に標準化を進める。国際的な医療情報システムに統合することで、



で、伝統医学による介入の形態、頻度、効果、安全性などのデータ集積が容易となるほか、従事者数、利用実態、経済指標といった医療統計が編纂でき、臨床、教育、研究、政策立案分野での活用が期待される。また、世界的に情報を共有することで、大規模な疫学調査も可能となり、特に安全性の検証を行う上での有用かつ必要な第一歩だと位置づけられている。

諮問グループ共同議長の渡辺賢治氏（慶応大学医学部漢方医学センター長）は、「高品質のヘルスケア情報がなければ、きちんとした保健政策を構築できない。従来のICDと証とのダブルコーディングが今後の日本の医療システムにとって重要になる」としている。